

現地見学会に参加

米代東部森林管理署	業務グループ	利光顕史
	業務グループ	栗木陸
	総務グループ	加藤美月
	治山グループ	成田拓矢

日差しの暑さが和らぎ始め初秋を感じる中、当署管内の県市町の林業担当者の方々に参加していただき、民有林・国有林における下刈作業の取組について現地見学会を開催しました。

本取組は、米代東部流域の林業行政機関担当者が民国連携を一層推進するとともに、林業の成長産業化等を着実に進めることを目的として、平成29年度から実施しています。



(写真) 筋刈後の植栽地

【実演見学】



(写真) 石川組職員による下刈の実演

株式会社石川組の協力のもと社有林内で、草刈機を用いた下刈の実演をしていただきました。

石川組では平坦な牧草地跡地を利用するほか、伐採時に切り株を除去しておくことで、下刈時に弊害無いスムーズな作業を可能としていました。加えて、成長の早いカラマツを植栽することで下刈回数の低減と軽労化に努めていました。

【国有林 筋刈※箇所見学】

国有林内で7月中旬に筋刈を施業した箇所に行き、経過状態を観察しました。そして、参加者へ筋刈の利点と欠点について説明し、造詣を深めていただきました。

また、参加していただいた方々との意見交換を通じて、今後の改善点を再認識しました。

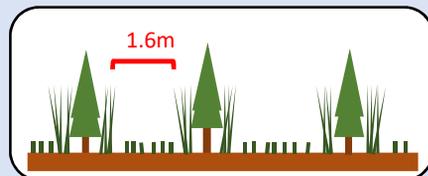


(写真) 国有林筋刈箇所見学

※筋刈（すじかり）とは

筋刈は植列に沿って狭く帯状に通常列間の半分程度の中で刈払う方法です。東北森林管理局では筋刈の方法のうち、列間刈を採用しています。

その特性上、従来の全刈が刈払面積100%であるのに対して、刈払面積が70%である筋刈は下刈コストの縮減及び軽労化が期待されています。



(図) 筋刈を横から見たイメージ